リフォームをめぐる人々 19

月1回掲載

三井のリフォーム 住生活研究所 所長　**西田恭子**

さまざまな業界の人たち

リフォーム業界は発展途上の業界で就労実態は把握しにくいが、リフォームに関わる仕事をしている人は増えている。

その就労形態が把握しにくい理由は各社多彩で、社内を見回すと、プロパー社員・転籍・出向・中途採用・契約社員・派遣社員・業務委託・バイトと八項目にわたっていることだろう。多岐にわたる同じ釜の飯を食べてこなかった人たちと、目的意識を共有するのはなかなか難しい。

先日、住生活研究所としてレポートを完成させたが、新メンバーから「今回のプロジェクトはやる価値が感じられ、やっていて面白かった」と言われ嬉しかった。

立場が違うメンバーがチームを組みそれぞれの能力を生かすには、明確な目標だけでなく、まずそれぞれに闊達な自己表現の場があり、互いに切磋琢磨し合いながら共通の基盤を作り出し、その後それを良い方向に統括することだろう。

当研究所の母体となる三井ホームリモデリングの設計を担当する約一七〇人の女性リフォームプランナーたちも、前職はさまざまだ。一級または二級建築士の資格を採用条件にしていることから、新卒であることはない。ゼネコン・設計事務所が多いものの、インテリア事務所・百貨店・そして中には文系からなどと出身はさまざまだ。

男性ならば三回も四回も転職していると、何か問題が？　などとうがった考えも頭をよぎるが、女性の場合は最終目標に向かってスキルアップしてきているように感じる。

リフォーム会社だけではなく、リフォーム関係の協会でもこのことはいえるようだ。先日もある協会の方にお会いしたおり、「西田さんの卒業した大学の後輩で、優秀ですよ」と女性を紹介された。卒業後、何社か経験を積んでからの現職で、まだ一年あまりでの高い評価だが、きっとそれまでの経歴がそう言わせているのだろう。

さまざまな経歴の人たちと出会い、共に働き、リフォームに関するいろいろな仕事をしている私だが、なかにはたいへんな苦労をすることもある。しかし、いつもその中に楽しさを見つけてしまう。

先日も某協会の方からお話しをいただいた。カナダ大使館主催で、ある州の役人の方の来日に合わせてのレセプションへのお誘いである。その州はフランスの統治下であったため、公用語が英語ではなくフランス語。語学が堪能とは全く言えない私なのだが、招待状

を頂き、どんな方々にお目にかかれるのだろうという期待が先にたち、そのご招待を喜んで、即座にお受けした。仕事関係のご招待なのだということを忘れてはいけないと、自分に言い聞かせながらも、「ドレスコードはあるのかしら?」と、お出かけ気分が膨らむ。

呑気な自分に、「女はこういう時は、図々しいほど前向きだ」と改めて思う。

西田恭子氏のプロフィール＝一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。